

# お墓は、後に続く家族の想いを 第一に考える場所だと思います。

著名な脳科学者である川島隆太さん。千葉からみやぎ霊園にお墓の引越し（改葬）をされた話を伺いました。

### お墓の引越しをされたそうですね

もともと、父が建てたお墓が千葉にあったのですが、お墓参りに行こうとすると「じゃあ、行くか!」という感じで1日ばかりになってしまって、なかなか行くことができませんでした。訪れる頻度自体が少ないことでお墓が荒れてしまっていました。

そんな状況を見かねた妹から「もう、墓じまいをしたら?」と強くすすめられました。それで妹や妻ともよく話し合いをして、僕自身も散骨を希望していたこともあり、異存はありませんでした。ただ、僕の次の世代である息子たちの宗教観はどうだろうと。それが分からなかったので、墓じまいをするか、それともお墓を移す改葬にするか、息子たちを呼んで聞いてみました。すると、驚いたことに彼らからお参りができるお墓が欲しいと言われたんです。

それまでうちには仏壇もなく、そんな文化を彼らに教えたつもりもなければ、家でそうした話をしたことすらありません。おそらく彼らには彼らの社会があって、この宮城という風土、仙台の公立の学校で教育を受けていくなかで、そういった宗教観が自然に共有されていったのだと思います。それを受けて改葬することにしました。4人いる息子のうち、3人は仙台に住んでいますので、お墓は仙台に持ってこようということになりました。



川島隆太さん

RYUTA KAWASHIMA

### 息子さんたちの意見が 背中を押したのですね

そうですね。僕自身は医学者ですから割と冷徹で、自分が死んでしまった後の意思はもう存在しないと思っています。だからこそ、後に続く息子やその孫たちがどう考えるかということが、お墓を建てる時には一番重要だと思います。今回、息子たちにお墓なんか要らないと言われていたら、おそらく改葬はしなかったと思いますね。

## みやぎ霊園を選んだ理由は？

一番の理由はやはりアクセスの良さです。お参りに行きたいとき、千葉での経験のようにそこに努力が要ると必然と足が遠のいてしまいます。その意味でお線香をあげたいときや、何か報告したいと思ったとき、車でサッと行くことができる距離感が一番の決め手になりました。もう何度もお参りに行っています。季節の花もあり、手入れも行き届いているので、うちの次男家族は半ば公園のように使っていますね。孫を連れて「お墓に行って遊んできたよ」と写真をメールで送ってきたりして。コロナ禍のご時世ですから、人がいない場所としてもちょうどいいらしくてお弁当持参で走り回っています！（笑）。

## お墓を移してから

### 心境の変化はありましたか？

僕自身が、あまりお墓参りをしてこなかった人間です。僕の両親と祖父母は北海道出身で、父が北海道から両親のお骨を千葉に持ってきたのは晩年でしたので、祖父母のお墓にお参りしたことも実はそれほどありません。

父や母が亡くなってからもお参りは年に一回ぐらい。お墓と自分の人生の関わりはほとんどなかったわけです。それもあって、どちらかと言うと僕にとってお墓は手入れに行くのが大変だな、というぐらいの感覚でした。



ですからお墓が僕自身の人生に何ら影響は与えたりはしていないと思っていました。

ただ、こちらにお墓を移してから息子や孫たちをみていると、たぶん、ちょっと違う人生観を持つんじゃないかなと思うようになりました。特に孫は物心につかないうちからお墓に行って、そこで楽しい記憶を得て、自分が会ったこともない曾祖父母にお線香をあげて拜んで。そういった経験をもつと、自然と自分が過去から続く人の流れの一部だという感覚を持つのではないのでしょうか。

## 最後に、川島さんにとってお墓とは？

家族が集まる場が一箇所、外にできたという感覚でしょうか。物理的に全員が集まなくても、お墓に行ってきたよ、という報告もあつたりと、その場所を通じて家族がひとつにつながっているというような気持ちです。それには、みやぎ霊園さんの開放的で明るい環境も影響していると思います。集まる場所が暗かったり、寂しかったりしたらやはりそういう気持ちにならないでしょう。みやぎ霊園さんにお墓を持つことができ本当に良かったと思います。

ありがとうございました